

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	小児・AYA世代の希少がんや遺伝性腫瘍の治療と晩期合併症に対応できる人材の養成コース(正規課程)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	3(早期修了)～4年						
養成すべき人材像	小児およびAYA世代の白血病等血液悪性腫瘍、脳腫瘍、その他の固形腫瘍の治療およびその後の晩期合併症の管理にも対応できる小児血液・がん専門医を養成する。また家族性腫瘍・遺伝性腫瘍の治療とサーベイランスも行うことができる医師を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、CS演習(1単位)、SP演習(1単位)、がん医療学実習(6単位)、発表表現演習(2単位)、研究指導(8単位)、研究公正B(1単位)、医学研究概論(1単位)、医学研究基本演習(1単位)、医学研究セミナー(1単位)</p> <p><選択科目> 関連のある専門科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	日本小児血液・がん専門医(日本小児血液・がん学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	小児がんは頻度が少なく、白血病等の血液悪性腫瘍のほか脳腫瘍、神経芽腫等の固形腫瘍を含む。治療の改善により小児がんの生存率は大幅に上昇したが、小児期の発達成長途上に受けた化学療法や放射線治療、手術等の治療が生殖機能や内分泌機能に及ぼす影響や二次がんなどの晩期合併症が問題となっている。また、がんゲノムの普及につれてリ・フラウメニ症候群などの家族性腫瘍・遺伝性腫瘍が発見される機会が増えている。これらの多様な問題に対応できる医師を養成するため、ゲノム医療センターと協力し小児血液・がん専門医・指導医が教育する。						
指導体制	小児血液・がん専門医・指導医および臨床遺伝専門医が指導						
修了者の進路キャリアパス	小児血液・がん専門医を取得し、小児およびAYA世代のがんと家族性腫瘍・遺伝性腫瘍の治療・サーベイランスが的確に行え、また、治療終了後の晩期合併症の管理ができる医師として活躍が期待できる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0	1	0	0	0	1
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	小児期およびAYA世代のがんと家族性腫瘍・遺伝性腫瘍は希少なため小児血液・がん専門医も少数でよいが、過去の大学院志願者数から3～4年に1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						